

社会資本総合整備計画

多様な緑のネットワーク形成と 人に優しいみどりのまちづくり

令和元年度 川崎市公共事業評価審査委員会

1

川崎市の都市公園等事業について



緑と水のネットワーク形成、生活空間における緑の質の向上

→ 緑が実感できるまちづくりの実現

2

社会資本総合整備計画の概要

「多様な緑のネットワーク形成と人に優しいみどりのまちづくり」

【計画の目標】

緑が実感できるまちづくりを実現するため、

緑を維持、保全、育成するとともに、新たな緑の創出に努めながら地域特性に応じた緑と水のネットワークを形成する。

■取組目標

川崎市緑の基本計画に基づき、緑の拠点となる生田緑地、菅生緑地の大規模公園緑地の整備や、多摩丘陵の緑の保全を中心とした特別緑地保全地区の指定により、風格のあるまちづくりを推進する。

3

社会資本総合整備計画の概要

要素事業

事業名	事業内容	事業実施期間					単位 (千円)
		H27	H28	H29	H30	R1	計画事業費 当初
都市公園事業 (生田緑地)	施設整備2ha、用地取得						2,506,100
都市公園事業 (菅生緑地)	施設整備0.6ha、用地取得						481,800
緑地保全等事業	用地取得22ha、保全利用施設整備						4,124,970
効果促進事業							
保全緑地管理計画策定事業	保全管理計画策定5地区						18,920
事業 合計							7,131,790

成果指標

指標名：市民1人当たりの「緑地環境整備面積」

算定式：
 都市公園等面積
 + 緑地保全地区等買入公開地
 + 市民緑地等内施設整備済公開地
 ــــــــــــــــــــــــ
 川崎市の人口

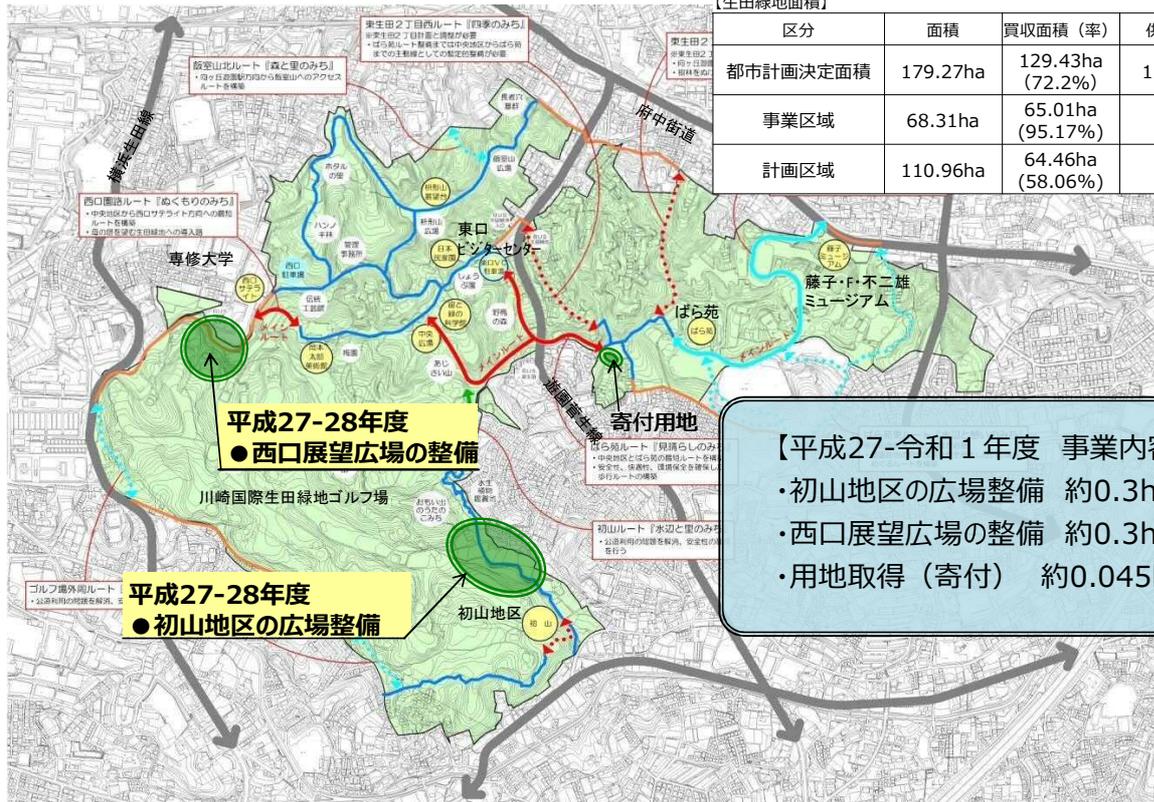
当初現況値	4.21㎡/人
中間目標値	-
最終目標値	4.38㎡/人

※「川崎市の人口」については、計画策定時（平成27年3月1日）で固定

4

都市公園事業（生田緑地）

【要素事業実施内容】



【生田緑地面積】

区分	面積	買収面積（率）	供用面積
都市計画決定面積	179.27ha	129.43ha (72.2%)	117.4ha
事業区域	68.31ha	65.01ha (95.17%)	-
計画区域	110.96ha	64.46ha (58.06%)	-

【平成27-令和1年度 事業内容】

- ・初山地区の広場整備 約0.3ha
- ・西口展望広場の整備 約0.3ha
- ・用地取得（寄付） 約0.045ha

都市公園事業（生田緑地）

【要素事業実施内容】

生田緑地初山地区広場(3期)

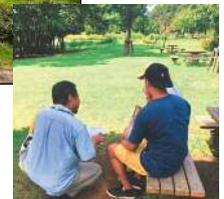
- 整備場所 川崎市宮前区初山1丁目地内（生田緑地初山地区）
- 供用開始日 平成28年11月
- 整備概要 整備面積 約3,000㎡
- 【主な施設】
- ・芝生広場
- ・ナチュラルガーデン
- ・園路
- ・パーゴラ・ベンチ
- ・植栽（サクラ、モミジ、エゴノキ、シバザクラ等）



施工前



竣工後



公園利用者へのアンケート調査

生田緑地西口展望広場

- 整備場所 川崎市多摩区栞形7丁目地内（生田緑地ゴルフ場クラブハウス跡地）
- 供用開始日 平成29年4月
- 整備概要 整備面積 約3,000㎡
- 【主な施設】
- (1) 展望デッキ 延長18m、高さ6m
- (2) 芝生広場
- (3) 園路
- (4) 枯山水
- (5) 植栽（サクラ、モミジ、マツ、ツツジ等）



施工前



竣工後



公園利用者へのアンケート調査

都市公園事業（菅生緑地）

【要素事業実施内容】

【菅生緑地面積（東地区・西地区合計）】

区分	面積	買収面積（率）	供用面積
都市計画決定面積	13.4ha	10.9ha (81.3%)	6.4ha
事業区域	7.7ha	7.2ha (94.0%)	-
計画区域	5.7ha	3.7ha (64.9%)	-



都市公園事業（菅生緑地）

【要素事業実施内容】



菅生緑地水沢2丁目地内用地取得

- 所在地 川崎市宮前区水沢2丁目地内
- 取得時期 平成29年3月
- 面積 305.67m

□ 用地取得場所



特別緑地保全地区とは…

- ・市域の良好な樹林地等の保全を目的
- ・風致や景観に優れており、動植物の生息地として保全する必要がある樹林地等について、都市計画に定めるもの

交付対象事業の内容

特別緑地保全地区内における

- ①土地の買入れ、及び損失の補償
- ②保全利用施設の整備

(土砂崩壊防止施設、立入防止柵・標識等の管理施設 など)



事業内容	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和1年度	合計
地区の指定	2地区 1.5ha	4地区 1.7ha	2地区 0.2ha	4地区 2.2ha	3地区 2.5ha	15地区 8.1ha
用地取得	3地区 3.39ha	6地区 5.32ha	4地区 1.05ha	4地区 3.02ha	4地区 0.9ha	21地区 13.68ha

用地取得の合計のうち2地区は複数年度で取得しているため、重複して計上

保全緑地管理計画策定事業（効果促進）

特別緑地保全地区における緑を適正に保全管理するため、**保全管理の方法、施設整備の方針**、その他適正な緑の保全管理のために必要な事項について、土地の関係人や、緑地の管理に係る地域住民等との協働により、計画を策定する。

【平成27-令和1年度 事業内容】

- ・管理施設等整備
- ・法面保護対策工事
- ・用地取得 約13.68ha
- ・保全緑地管理計画策定等 6地区

緑のネットワーク形成の視点をもった緑地保全施策の効果的な推進

【本計画に関連する取組】

緑地保全カルテにおける生物多様性の視点を踏まえた項目の設定

平成14年～
(平成26年評価方法見直し)

緑地総合評価

緑地保全施策を効果的に推進していくため、市内に残された1,000㎡以上の樹林地の現状を把握し、植生など各種のデータを整理・評価しA・B・Cのランクに分け、保全すべき樹林地の優先順位を明らかにするもの。

生物多様性に関する項目

多摩川崖線軸、多摩丘陵軸以外の市街地において広がる、生物多様性の保全をはじめとした環境保全に貢献する緑地や、生活圏に残された身近な緑地の保全を進めるために設けている。

緑地番号					総合判定
所在地					A
自然的条件					
名称	落葉広葉樹林	竹林	落葉広葉・竹林	針葉樹植林 (スギ植林)	
平均樹高	10 ~ 24 m	8 ~ 18 m	10 ~ 22 m	15 ~ 27 m	
平均胸高直径			7 ~ 45 cm	13 ~ 70 cm	
生育状況	地形の多様性 緑地に存在する谷戸、湧水は、小川川等の水辺のつながりにより、豊かな生物多様性を育む重要な拠点となるため加点对象としている。				
管理状況	河川・農地との連続性 生き物の生育・生息環境のつながりとなるため加点对象としている。				
主な樹種	アオキ、サカキ、スギ、サワラ、ミズキ	コナラ、ク、シラカシ、スギ、サワラ、ミズキ	アオキ、サカキ、スギ、サワラ、ミズキ	アオキ、サカキ、スギ、サワラ、ミズキ	
主な床植物	アオキ、サカキ、スギ、サワラ、ミズキ	アオキ、サカキ、スギ、サワラ、ミズキ	アオキ、サカキ、スギ、サワラ、ミズキ	アオキ、サカキ、スギ、サワラ、ミズキ	
草花	アズマネザサ	アズマネザサ	アズマネザサ	アズマネザサ	
規模(面積)	99㎡				
地形の多様性	谷戸、湧水4ヶ所				
周辺動植物	イモリ、ウグイス、ウラナミアカシジミ、オオチャバネセセリ、オニヤンマ、コナラ、サシバ、セイヨウタンポポ、タヌキ、トウキョウダルマガエル、ベニシジミ、ヤマカガシ、ヤマサナエ				
文献情報					

生物多様性に関する評価項目を踏まえ、A・B・Cの評価を行うことで緑地保全の優先度を明確にし、緑のネットワーク形成を効果的に推進

(緑地保全カルテの一部)

要素事業の進捗状況及び評価指標の達成状況 【計画に記載した評価指標】

要素事業の進捗状況

事業名	事業実施期間					計画事業費		執行額		進捗率
						当初	評価時	評価時		
	H27	H28	H29	H30	R1					
都市公園事業（生田緑地）						2,506,100	169,257	152,074	90%	
都市公園事業（菅生緑地）						481,800	147,359	133,830	91%	
緑地保全等事業						4,124,970	2,861,283	2,271,521	79%	
効果促進事業										
保全緑地管理計画策定事業						18,920	5,692	5,692	100%	
事業 合計						7,131,790	3,183,591	2,563,117	81%	
								【財源内訳】		
								国：908,000		
								市：1,655,117		

評価指標の達成状況

指標名	当初現況値	最終目標値	実績値	目標達成状況
市民1人当たりの 緑地環境整備面積（㎡/人）	4.21	4.38	4.39	達成

6,155,655㎡÷1,462,056人（H27.3.1時点）
≒ 4.21㎡/人

6,415,882㎡÷1,462,056人（H27.3.1時点）
≒ 4.39㎡/人

⇒緑地環境整備面積は、6,155,655㎡から、6,415,882㎡に増加
（増加分260,227㎡：うち116,677㎡は本計画の事業外の要素により増加）

※事業外の要素※ 都市公園の増加

（民間企業の開発行為に伴う公園整備、市内他局からの管理換による公園整備などによるもの）

11

事業効果の発現状況（アンケート概要）

【計画で設定した以外の評価指標】

■ 設定指標

- ① 事業実施後の公園緑地に対する利用者の印象評価
- ② 緑地保全の取組に対する印象評価

公園利用者へのアンケート調査

【実施目的】 各事業の効果を利用者が実感しているか
印象評価により、確認するため

【実施場所】 生田緑地、菅生緑地

【調査内容】 ・事業概要を提示し、事業後の利用状況等をアンケート用紙に記入

【調査期間】 （箱設置）令和元年9月7日(土) ～ 令和元年9月24日(月)
（対面式）令和元年9月7日(土)、9月15日(日)

【有効回答】 178部

12

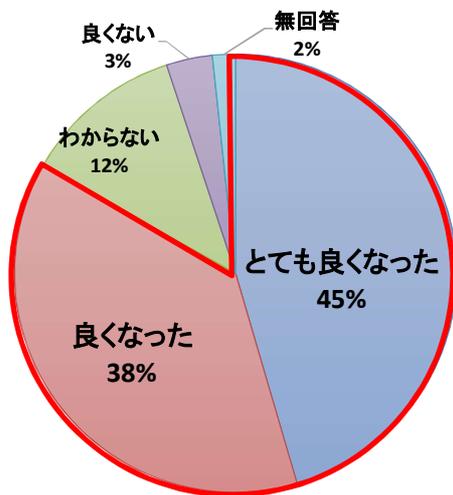
事業効果の発現状況 (アンケート①-1)

【計画で設定した以外の評価指標】

■ 設定指標

① 事業実施後の公園緑地に対する利用者の印象評価

⇒ 【設問 1】 事業実施後の緑地への印象は、良くなったか。



【回答】「とても良くなった」
「良くなった」

83 %

事業による
利用環境向上の効果があつた

13

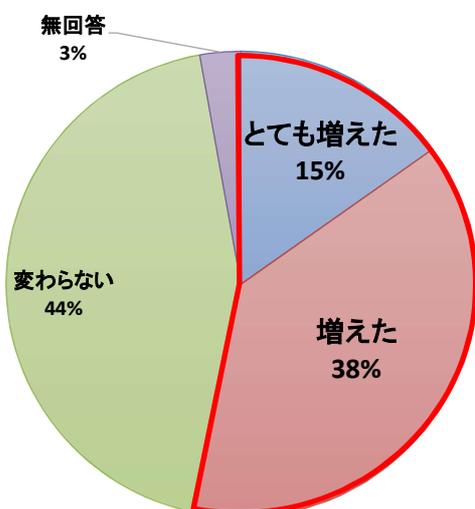
事業効果の発現状況 (アンケート①-2)

【計画で設定した以外の評価指標】

■ 設定指標

① 事業実施後の公園緑地に対する利用者の印象評価

⇒ 【設問 2】 事業実施後に、以前よりも公園の利用回数が増えたか。



【回答】「とても増えた」
「増えた」

53 %

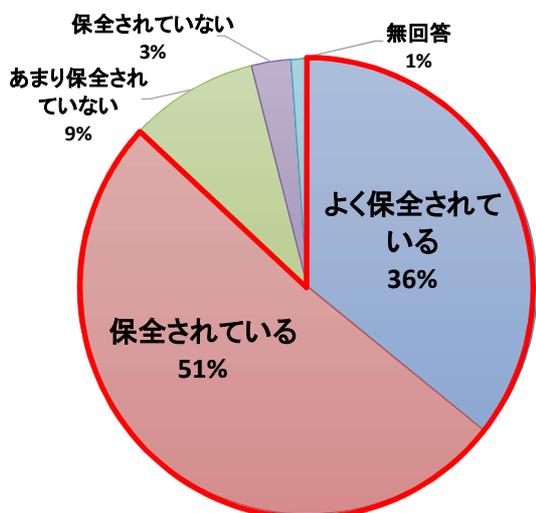
事業の効果により、
利用頻度・増の傾向がみられた

14

■ 設定指標

② 緑地保全の取組に対する印象評価

⇒ 【設問】 良好な自然的環境が残る緑地が、保全されていると感じるか。



【回答】 「よく保全されている」
「保全されている」

87 %

事業の効果が認識されていた

15

公園利用者へのアンケート調査

（印象調査と同時に実施）

【実施目的】 利用者が本市の緑地保全事業の取組について、必要と感じているか確認するため

【実施場所】 生田緑地、菅生緑地

【調査内容】 ・事業概要を提示し、意見等をアンケート用紙に記入（選択式）

【調査期間】 （箱設置）令和元年9月7日(土) ～ 令和元年9月24日(月)
（対面式）令和元年9月7日(土)、9月15日(日)

【有効回答】 178部

今後の方向性

■次期計画

計画期間 令和2年度～令和6年度の整備計画を作成予定

「緑の基本計画」の基本理念の実現に向け、継続して取組を実施

■次期計画に向けた取組

事後評価・アンケート結果に基づく、整備計画と目的、適切な指標の検討

大規模公園緑地の整備

市民意見を踏まえ、各公園の整備方針に沿って、魅力ある公園緑地の整備を推進する。

特別緑地保全地区の指定

緑の基本計画に基づく目標達成に向けて、引き続き指定区域の拡大に取り組む。